

# 東南アジアの自然と農業研究会

第76回研究会ご案内

朝夕、ずいぶん冷え込むようになりましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。定例の研究会を開催いたします。今回は、京都大学農学部熱帯農学専攻の 虫明 悦生 氏に、下記のようにご報告していただきます。皆様の多数のご参会を心よりお待ちしております。なお、事務局の手違いもあり、研究会のご案内がずいぶん遅れてしまったことをお詫びいたします。

## 記

日 時 : 11月 8日(金) 午後4時~午後6時  
会 場 : 東南アジア研究センター 東棟2階第一教室  
京都市左京区下阿達町46  
川端通り荒神橋東詰め  
話題提供者 : 虫明 悦生 氏  
話 題 : 開かれるメコン川中流域  
雲南・西双版纳、ラオス、北タイの動き -

(要旨)

陸路でタイからラオス、そして雲南へ。数年前まで、一部の旅行者にとっては憧れであったこの地域の旅行が自由になった。どんな人々が、どんな所で、どんな生活を営んでいるのか。今、彼らや彼らの地域はどうなっているのか。そして将来は。

谷や盆地ではタイ系の人々が水田を耕し、山の斜面では数々の少数民族が焼畑を営む。ともすれば牧歌的なイメージを持たれやすいつつある。かつての桃源郷にも、北から漢族がおしよせ、その姿を大きく変えつつある。

中国化(漢化?)の進みつつある西双版纳や北ラオスの街や村、そして北タイの山の上の様子を、現在のタイ族や山地の焼畑民の姿をまじえながら、広く、スライドを中心に紹介する。

問い合わせ先: 京都大学農学部熱帯農学専攻  
柳沢 雅之(Tel 075-753-6374)  
京都大学東南アジア研究センター  
福井 捷朗(Tel 075-753-7308)